

第4日

令和3年9月3日（金）

午前11時10分再開

○議長（半田雄三君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可します。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君） 皆様、おはようございます。質問の許可をいただきました10番議員、中島でございます。

先日、テレビを見ておりましたら、新しい言葉に出会いました。その言葉は、パーパスという言葉なんですけど、直訳しますと目的という言葉なんですけれども、企業の経営者が、要するに「今からパーパス経営の時代ですよ」というようなことをおっしゃっていました。

この経営の中におきまして、このパーパスというのは、存在意義とか志とか、そういう意味になるそうです。何のために存在するのか、何のために仕事をするのかという、その存在意義です。そして、そのパーパスは、私はこれがやりたいという情熱の源泉になるそうです。

そのテレビを見まして、議員のパーパスって何だろう、議会のパーパスって何だろう、職員の皆さんのパーパスって何ですか。市役所のパーパスって何ですかというようなこと考えました。

私は、議員のパーパス、そのうちの大きなものはチェック機能だと思いますけれども、議場で政策論争をするというのも重要なパーパスだろうというふうに思っております。今回、この質問をさせていただきますが、ざっくりとした質問ですので、1時間、時間をもつのかどうか心配しております。しかし、食らいついて質問をしていきたいと考えております。

以下は、質問席より質問させていただきます。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） では、通告に従い質問をさせていただきます。

コロナ後に朝倉市が発展するために、何をしたらいいのかということで上げさせていただきました。

私は、これ、前回の6月議会の積み残しなんですけれども、質問ができませんでしたので今回やらせていただくんですが、そのときは朝倉市の成長戦略ということで書かせていただきました。

私は、朝倉市がこれから発展していくために、どういう筋立てで物事を考えてやっていったらいいのかというようなことを考えておりました、その中で人口を増やすというこ

とは、やはり大事だろうと、自治体の基礎体力を維持していくためには人口を増やす。最低限でも維持するような形を取らないといけないのではないかと考えております。

そのためには、まずは、いきなり住むということは、なかなか現実的ではないでしょうから、朝倉市に来てもらうというのが必要ではないかと思っております。

交流人口とか関係人口とかいう言葉で表現をされるんですが、まずは交流人口を増やして、そして最終的には定住人口になっていただく、そういったことが必要ではないかというふうに思っております。まずは朝倉に行ってみたい、朝倉を見てみたい、これが大事じゃないかなと思っております。

では、すいません。通告しておりませんが、いきなりの質問をさせていただきます。藤部長、県からお見えになられたと思うんですが、こちらの朝倉に働く前に、朝倉に来られたことはありますか。そして、もし来られたことがありましたら、どういうところを見られて、どういう印象を持たれたのかお尋ねします。すいません、通告しておりませんで突然の質問で申し訳ないんですが、教えてください。

○議長（半田雄三君） 総務部付部長。

○総務部付部長（藤浩二郎君） すいません、突然の質問でございますけれども、私、県から参っておりますが、県職員になりましたのが平成8年になっております。そのときに、最初に赴任したところが、当時の甘木土木事務所ということで、それまで正直、この地には縁がなかったんですけども、職員になったときから、この朝倉の地には、そのとき初めてこの地を知ることになりまして、非常に、やっぱり農業が盛んなところで、景色とかそういうところも含めて、自分は非常に好きなのところというところがございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） としましたらば、仕事で働いたら、当然職場に愛着が沸いて、休みの日とかも家族とか、何か友達とかを連れて、観光でちょっと見て回ろうとかいうふうになるんじゃないかと思えます。

これから、すいません、観光の話をしようと思っているものですから、甘木・朝倉地区というふうにいますけれども、そこの中で見て回ったところとか、「ここ、いいとこだよね」とか、そういうふうに思ったところが、何かそういったエピソードがあったら教えていただきたいんですけども。

○議長（半田雄三君） 総務部付部長。

○総務部付部長（藤浩二郎君） 朝倉市で勤務することになりまして、こちらの朝倉の地を知ることになりまして、その後、やはりおいしいものであったりとか、秋だったら、やはりフルーツであったり、そういうところもございますし、あと、この朝倉の地、私が土木の職ということもありますけれども、ダムが、今回3つ目ができましたけれども、やはりこういったダムがこんなに近くにいろいろあるというところは、一つの観光のスポット

として、そういうところはいいかと思います。

あと、それ以外にも、いろいろ原鶴の温泉だったりとか、そういうところは、私、これまでも何回か足を運ばせていただいているのが実情です。以上になります。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 藤部長、すいません、突然の質問で、ありがとうございました。

副市長、1回、昔、聞いたかもしれませんが、副市長が印象に残っているところとか、朝倉の観光について、ここ、いいとこだよねと思うところがあったら、ちょっと個人的な意見で結構ですので教えてください。

○議長（半田雄三君） 副市長。

○副市長（右田博也君） 私は観光地というと、ちょっと離れているかもしれないんですけども、こちらに来て、しばらく半年ぐらいは独り暮らしということもあって、いろいろなやっぱり朝倉のおいしいものを食べて、馬刺しであったりとか、うどんを食べたりとか、スイーツとか、やっぱりいろいろおいしいものがありますので、食べている中で、体もちょっとだんだん大きくなってきて、運動せないかんという話も、ちょっと考えながらどうしようかなと思っていたときに、ここ市役所の近くに大平山がありますので、ちょっと山を登ってみようかと思って、大平山に登るように、ちょこちょこなりまして、それで大平山から展望台に登ったときに、そこから見る景色とか、そういったところで、やはり心が癒やされるというところがありまして、それから定期的に山にも登るようになりまして、そういった新しい趣味を見つけさせていただいたというところが、ちょっとこちらに来て、よかったかなというふうに思っております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） すいません、ありがとうございます。大平山というのは、本当に灯台下暗しで、確かにそうだよなって、大平山っていいよねというふうに思いました。

そして、朝倉市は山が多いですので、登山というのも一つの重要な観光資源ではないかなというふうに、改めて思いました。ありがとうございました。

私は、先ほど申しましたように、まずは朝倉市に行ってみたい、見てみたいということが、思っただくことが必要ではないかというふうに思っております。そして、何か行ったら食べてみたい、見てみたい。そして、その延長上に住んでみたいということがあるのかなと思っております。

私は、そのためには、やっぱり観光の核になるものが必要ではないかなと思っております。いろいろ観光の核になるというのは、何があるのかなというふうに思い浮かんだんですけども、RESASというデータベースがあるんですけども、その中から数字を拾おうと思うんですけど、RESASを検索しますと、観光施設等を目的とした検索回数ランキングというのがございます。

1位がキンビールの福岡工場、これが、約550回ぐらいです。そして、2位がちょっ

と下がりまして秋月です。これが340回ぐらい。それから原鶴温泉が229、だから230。それから、道の駅原鶴が210。そして、パーレンス小野屋というふうになっているんですが180というふうになっております。それと、すいません、泰泉閣さんも、これは3番になっております。泰泉閣さんが、すいません、229で4番目に入っています。

とにかく原鶴地区で910の検索で、麒麟ビールがトップで560ぐらいなんですけれども、原鶴地区でも910でありますので、原鶴、秋月、それから麒麟ビールというのは、非常に朝倉市の核になるというのが、数字上も分かるのかなと思いました。

私は観光の核がやっぱり必要だというふうに思っております。観光の核に何かあって、そこに行ってみたい、見てみたいというようなのがないと、観光客は増えないと思えますが、担当課のほうでは観光の核はどういったものをお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 朝倉市の観光になるものとしましては、城下町秋月、原鶴温泉、三連水車などが掲げられます。近年では山田堰も朝倉市を代表する観光資源となっております。

城下町秋月につきましては、筑前の小京都と呼ばれ、江戸時代の景観を残し、町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定をされており、城下町全体が保存地区となっているのが特徴となっております。

原鶴温泉につきましては、県内随一の湧水量を誇る温泉地であり、その温泉のよさからダブル美肌の湯と知られております。

三連水車は山田堰と併せまして、世界かんがい施設遺産にも登録をされた利水施設で、特に山田堰につきましては、アフガニスタンの復興のモデルとなり、故中村哲医師の功績と併せまして、最近、注目を集めている施設となっております。以上です。よろしく願いいたします。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 秋月、それから原鶴、それから山田堰、三連水車などが出ましたけれども、そういった中で、そのデータベースのRE S A Sの中では、麒麟ビールの福岡工場がダントツで、検索回数では観光施設等を目的とした調査では1位になっているんです。麒麟ビールの福岡工場。

今日、日経新聞の朝刊に4段の麒麟ビールの福岡工場の記事が出ておりました。敷地の面積がP a y P a y ドームの8個分あるというようなこととか、400人が働いているとか、そういうことが、今日、朝刊に出ているんですけれども、この麒麟ビールの福岡工場というのは、先ほど上がってこなかったのは、何かもったいないなと思うんです。

コロナ前でしたらば、年間10万人近くが訪れていると、この新聞記事には書いてあります。まず、この新聞記事、今日、御覧になりましたでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） すいません。今日、まだその記事を読んでおりません。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） もちろん今日の新聞もいろんな新聞がありますし、御自宅に、必ずしも日経新聞取っているとは限りませんので、それはもう御覧になられていなくて当然のことだと思うんですけれども、感染状況を見極めながら、10月以降に工場見学を再開したいというようなことも書かれております。

私も子どもの頃、工場見学、非常に楽しみにしていて、何か楽しかった思い出があるんです。私、議員に、たしかなくて、一番最初的时候に、よく朝倉市では「ビールはキリン、タイヤはブリジストン」って言われていましたので、キリンビールを活用して観光を打ち立てたらどうかというようなことを質問させていただいたんですけれども、そのとき、やっぱり一企業だけに力を入れるというのはできないというような答弁を頂いたような、なかなか難しいと。やはり行政である以上、まんべんなくやらないといけないというふうに言われたのを覚えております。

もう今から14年ぐらい前になってしまうんですけれども、ただ時代が変わりまして、ある程度、やっぱり選択と集中ということが言われまして、やはり物事を印象づけたりとか、一番最初の第一歩を踏み出してもらうためには、核となるものとか選択、集中的にやらないといけないということが必要では、戦略上、見せ方上、必要ではないかなと思っております。

キリンビールの福岡工場は、日本のビール工場で唯一ビールの大麦から麦芽をつくる精麦設備を持つ工場だそうです。非常に大きな工場らしいんですけど、この工場を生かさないというのはもったいないんじゃないかなと思っておりますが、突然の質問で申し訳ありません。市長、私は何かもったいないなと思うんですけれども、もうちょっとキリンビールを提携をして、朝倉市の財産でもありますし、一民間企業ではあるんですが、そこら辺の難しさもあると思うんですけれども、私はもう少し生かして、アピールしてもいいと思うんですが、市長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） お答えいたします。

キリンビール福岡工場、まさしく広大な敷地を持つ、日本有数のビール工場でありますので、当然、ビールはキリンということで過去も行ってこられたということは知っております。

朝倉市と、これ完全に、今、資料等持ち合わせませんので、私の、ちょっと頭で、今、お答えさせていただきますと、キリンビールと朝倉市は極めて良好な関係にあるというふうに思っております、具体的には御案内のようにコスモス等花の季節にあっては工場見学を含めて恐らく20万人ぐらいは、年間訪れる人がいるんだろうと思っておりますけど、こうい

った折に、朝倉をはじめとする農産物の販売をやっていただいたりとか、それからダムの話が出てきましたけれども、いろんなイベントのときに、キンビール、積極的に商品提供していただいたり、社員の方も来ていただいて、一緒になって取り組んでいただくというようなことも、当然ございます。その他もろもろ、良好な関係でやっていただいております。

それから、甘木鉄道とか、あまぎ水の文化村とか、そういった経営にも福岡銀行さん等々が入っていただきまして、具体的な形で甘木鉄道の乗客数の向上に、キンビールを訪れる人と一緒になって取り組んでいくと。あまぎ水の文化村を中心としたいろんなイベント等についても、その役員に入っておられますので、そういったことをいろいろお話をしながら、具体的な展開をしていく中で、私としては直接意見を聞いたり、いろんな関係をさせていただくということを含めまして、お付き合いをしていただいているということでもあります。

お話がありましたように、一企業だからということではなくて、キンビールというのは、お話のように観光客も物すごく多いということでもありますので、キンビール工場を訪れた人たちが秋月に行かないか、原鶴に行かないか、そのほかのところに行ってくれるといいなというお話は、ずっと、実は工場長をはじめ、いろんな方とやっています。

それ、実現をしておりますけれども、先ほど申しあげましたイベント等々の協力関係も含めて、今後ともしっかりと民間と行政という立場でありますけれども、それをしっかり踏まえながらということにはなりますけれども、連携をしてお願いをしながら、キンビールさんとはお付き合いをしていきたいというふうに思っています。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 突然の御指名で、資料もなく大変お話しづらかったと思うんですけども、今、市長からございましたように、官と民の難しさといえますか、民間と行政の難しさというのが確かにあると思うんですけども、ただ朝倉市は、キンビールの企業城下町といってもおかしくないぐらいの、やっぱり関係性が深いし、また昔から良好な関係を築いていると思いますので、ぜひともそれを生かしていただいて、もちろんブリジストンとかも、ほかの企業さんもありますけれども、そういった財産がありますので、これをぜひとも生かしていただいてやっていただきたいと思います。

先ほどから何度も言っていますように、RESASというその統計です。総務省が出しているんですか、ちょっとすいません。私、不勉強で、申し訳ないんですけども、これの中で、やっぱりその数字とファクトという意味で出ておりますので、私は生かしていくべきではないかなというふうに思っております。どうぞよろしく願いいたします。

そしてそこで、初めは行ってみたい、見てみたい、そして今度は食べてみたい、買ってみたいというようなのが次に来るとのことなんですけれども、観光客の60%ぐらいが食を求めて訪れているというようなことも書いております。

食というのも大事だと私は思っています。もちろん麒麟ビールに行けばおいしいビールが近くのレストランで飲めるとかいうのもあると思いますし、朝倉の飲食店では新鮮なビールがたくさんありますので、そういったビールが飲めるから、そういった意味では大きな集客力になるのではないかと考えております。

ただ、もう少し何か、朝倉の食があつたらいいなというふうに思っております。「新観光立国論」という本があるんですけども、食、自然、文化、気候、この4つの要素の組み合わせが多様なほど、滞在時間が延びて、その御当地の消費額も増えるというふうに書いてあります。

私は朝倉市の食というのが、もうちょっとあつたらいいなと思うんですけども、朝倉市の食というところに光を当てまして、担当課としてはどのようにお考えでしょうか。何か食の、やっぱり強いもの、コンテンツがあつたらいいなと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 今、議員の質問の前に、ちょっと1点だけの補足といたしますか、麒麟ビール工場との提携関係、これについてはしっかり提携を行って、例えば、あさくらサイクリングフェスティバルということで、今、ちょっと工場内は走れなくなりましたが、コスモス園でのキッズレースを行ったりとか、そういうことも行っておりますし、あさくら祭り等についても出店をしてもらったりとか、そういうのは小まめにやっております。

それから、先ほどの観光客、入込み客数になるかと思うんですが、令和2年が、ちょっとコロナの関係で人数が下がっておりますので、コロナ前の令和元年の数字でいいますと、三連水車、直売所です。三連が54万、バサロが50万、麒麟が34万、秋月が27万、原鶴が約16万ということで統計が上がっております。これは、ちょっと令和2年度になりますと、コロナの影響でかなり下がっているような状況があります。ちょっと補足でした。

それで、今の質問につきまして、食についてということですが、朝倉市の特産品、食については、まずフルーツが上げられるということで担当課のほうでは考えております。

例えば、博多あまおうです。富有柿等の甘柿、とよみつひめなどのフルーツ等に力を入れている農産物があります。

また、市が朝倉観光協会と連携して取り組んでおります筑前朝倉蒸し雑煮があります。これは、全国的にも珍しい、蒸すタイプの雑煮となっております、地域を代表する郷土料理に育て上げることを目標に、平成28年度から取組を行っております。令和2年度には、Fコープでの商品化も実現しまして、念願でありました小学校、小中学校での給食提供にもこぎつけております。

また、さらなる広がりをお求めまして、令和2年12月には長崎県島原市や熊本県山鹿市と連携をしまして、九州お雑煮サミットを開催をしております。以上です。よろしくお願

いたします。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 部長、キリンビールの補足、ありがとうございます。そういえばサイクリングといいますか、工場内のオーバルコースを自転車が疾走するレースがあったとかいって、私も見にいきたかったなと思ったのを思い出しました。

今、部長のほうから蒸し雑煮であったりとかフルーツとかが出ましたけれども、この前、「日経トレンドィ」という雑誌があるんですけども、8月に9月号が出版されまして発売になりまして、2021年の9月号の九州エリアの道の駅ランキングで、道の駅うきはが2位に入っていたんです。1位は、たしか、ちょっと手元のあの雑誌、捨てちゃったものでしたからあれですけど、1位はたしか鹿児島島の垂水だったような気がするんです。あそこは何か、カヌー体験みたいなのができるということで、1位だったような気がするんですけども、フルーツが朝倉有名だったのに、何でうきはなんだろうと。

うきはに、最近、もちろん道の駅というくくりです。三連水車とかバサロとかもくくりは、たしかに、カテゴリは厳密にいつてあるとは思いますが、最近フルーツについては、うきはにお株を奪われているのではないかとというふうに心配をしております。

1年を通して、旬のフルーツが多彩に並ぶ直売所が最大の売りというふうには、道の駅うきはは雑誌に書いてあります。フルーツで競り負けているのではないかとというふうに思います。

部長、どんなふうでしょうか。競り負けていませんかでしょうか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） まずフルーツにつきましては、生産量、質もうきはのほうには全然負けていないと思っております。ただ一点、やっぱりマスコミ、メディアでの宣伝とか、その辺についてはこれからちょっと工夫なり、力を入れていく必要があるかとは考えております。

それで、現実的には、今、うきはの道の駅がトップということを言われましたが、うちで言うと道の駅であれば、国交省の事業ですので、原鶴のバサロが該当します。三連水車は、ただの直売所ということで、道の駅には該当しません。

ただ、両駅とも8億円から9億円弱ぐらいの売上げを上げております。ですから、両方を合計すると、十五、六億円ぐらいのあらになりますけれども、売上げを上げておりますので、そういう面から見ると、決してうきはの道の駅と遜色ないだけの売上げは上げているかと思っております。

それで、今、JAのほうでも中央パッケージセンター等ができましたので、例えばイチゴの規模拡大とかそういうのもできるようになりましたし、甘柿についてもブランドになる秋王です。これが、なかなか生産が難しいんですが、これが今、多分県内でも、もうトップクラスの出荷量になるんじゃないかということで期待をしているところです。もう食



べてみると、かなりおいしいです。

それで、そういうのがもうロコミで出てきて、今までは直売所で売れなかったのが、多分、今年から売れるようになると思います。

それと、あと、とよみつひめ、これはイチジクになりますけれども、これも生産量でいけば、面積でいけば県内トップの作付面積まで来ております。

こういう状況で、やっぱりフルーツと言えはとあっていうイメージがありますけど、今、議員も言われたように、今、直売所で去年に引き続き、キャッシュバックキャンペーンといいまして、2,000円以上の買い物をされた場合については郵送代を500円値引きをしますと。これがお盆の果樹のシーズンです。モモ、ブドウ等のシーズンと、秋の柿のシーズン2回に分けて、今年は1回が2,000名の春と、お盆時期と冬、秋の時期です。これを両施設で行いますので、トータル4,000ですか、1施設当たり4,000になりますので両方で8,000件については500円の割引をするということで、もう7月から実施しました分については好評で、もう全て売り切れていますから、もう予定した量ははけております。

ですから、そういうことで去年に引き続き、今までなかったように三連とバサロと共同でタイアップをして一緒にやろうということで、去年からして今年もしておりますので、それがまた新聞とかメディアにも取り上げられるような宣伝の仕方を考えていきたいと考えております。よろしく申し上げます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、部長のほうからSNSであったりとか見せ方の問題が、お話が出ました。要するに、その直売所自体が持つサービスそのものであったりとか、何か非常に魅力的な便益です。メリットと申しますか、あそこに行ったら何かおいしいものが食べれるとか、そういったものは、プロダクトアイデアって言って、もともと、その商品が持つ底力みたいな、そういったものがあるんです。

それとは別に、その商品やサービスを顧客に認知してもらうための手段、これ、コミュニケーションアイデアというんですけれども、これの部分が、ちょっと下手なんじゃないかというようなお話だったと思うんです。

例えばその競争の激しい携帯電話とかでいくと、ドコモさんとかauさんとかソフトバンクさん、楽天さんとかがしのぎを削っているんですが、白い犬が出てくるソフトバンクのコマーシャルなんかは、物すごく皆さんの頭に残っていると思うんですけれども、そういった、やっぱりコミュニケーションアイデアというのも、これは両方、両輪で大事だと思いますので、そこのところ、ちょっと弱いんじゃないかなと思っております。

そして、この両輪をそろえて早く、要するにフルーツだったらうきはとか、フルーツだったら原鶴とかいうような認知を早くしたほうが勝ちだっというふうな、これはマーケティングの手法があるんですけれども、今はちょっと競り負けて、フルーツと申したらうきはになっちゃっているのかなというふうに思います。

私も「トレンドィ」を見ていて、そういえば、うきはの道の駅は5年以上行ってないから、一回行ってみようかというような気持ちになりましたので、やはり、そのメディア戦略と申しますか、こういった宣伝をしていくというのは、私は必要じゃないかなと思います。

これから発信力というのが求められるような時代になりますので、発信力に力を入れていくべきだというふうに考えております。

男は黙って何とかとかありましたけれども、そういう時代ではなく、やはり有言実行の時代になりました。そういった意味でメディア戦略と申しますか、売り込みというのは大事だと思うんですが、また突然の御指名で申し訳ありません。市長、ここの発信の部分については、やはり市長の大事なお仕事だと思うんですけども、いかがお考えでしょうかお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 発信、どの分野の発信……、フルーツといえばうきはと、これはもう確におっしゃるとおり、ある種定着をしているというようなことで、その戦略と申しますか、それ、ちょっと、今、研究をしていると。具体的に副市長が、ちょっといろいろと調べているというような状況にございまして、部長が先ほど答弁いたしましたように、朝倉にある直売所2か所ですけれども、これについても決して生産量、全体の生産量、負けておりませんので、JAの東京市場出荷との関係とかいろいろございまして、しっかりと取り組んでいくということで、今、取組を始めておるところであります。

こういう中で情報発信をどうしたらいいかということになると、ちょっと議員みたいに、私は詳しくございませぬので、副市長が、今、いろいろと勉強をして、朝倉の地域振興、具体的な観光等も含めたいろんな研究を、うきは市の副市長と、最近始めておりますので、その辺りを、ちょっと副市長から紹介をさせていただきたいというふうに思います。

○議長（半田雄三君） 副市長。

○副市長（右田博也君） 今年の6月にうきは市の副市長が新しく代わられまして、そちらの副市長が九州経済産業局の御出身ということで、御挨拶に来られた際に、ぜひ朝倉とうきはで連携して何か取り組めることがないかと。今までですと、やはり隣の自治体で、やはりライバル視、先ほどから言われているとおり、うきはがフルーツ王国だと、朝倉も負けていられないという話もありますけれども、福岡全体、それから日本全体で、それから世界で見たときに、朝倉とうきはというところで、やはり筑後川を挟んで隣接の自治体ということは、一緒に何か取り組めるほうが、お互いにとってプラスになるのではないかと。ということもありまして、ぜひそういうところが何か協力できるような取組が、これは観光に限らずいろんな分野で何かないでしょうかということ、月に1回、情報交換をさせていただいている場を、会議等つくっております。

その際に、いろんな分野で関係の部長さんとか課長さんにも来て、一緒についていって

いただいて、そこで意見交換をしたりとか、そういうことをやっております、まさに初回が道の駅うきはの取組、私がもともとのかっけは、「じゃらん」という観光の雑誌とか出されているとかありますが、あれで道の駅うきはが九州で1位になったというところがありましたので、そういったところでどういった取組をされているか、それから、例えばそれをバサロのほうでまねできるところがないとか、そういったところをお話を聞かせていただいたところでございます。

これは、今後もぜひ続けていって、初めに何か一つ、まずは事業をうきはと朝倉で連携してやる事業というところで、ぜひ早ければ来年度にも何か形になるものがあればいいなというふうに思いながら、今、お話を勉強させていただいているところでございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 突然の御指名で本当に申し訳ありませんでした。

ただ部長のお話、副市長のお話から、本当に楽しみだなと思うようなお話を聞かせていただきました。バサロと三連水車の、要するに共同の戦略でやっていく、それからうきは市とタイアップをしてやっていく、やはり今、時代は個々でやるというのはなかなか難しいですので、いかに上手に組んでいって、お互い足りないものを補っていくかと、そういう時代だと思いますので、ぜひともそれをいい方向、うまくやられまして、いい方向に結びつけていただきますようお願いいたします。本当に楽しみにしております。

そうしまして、すいません。次の質問に移らせていただきます。

観光客として来てもらって、そして、朝倉市に住んでもらうというのが私はいいなと思っているんですけど、その一方で、朝倉市は嫌だなと、隣の芝のほうは青いからほかのところに行きたいと思うような人も減らすというのも、私は大事じゃないかなというふうに思っております。

住人の満足度を上げるということも、私は必要ではないかと思っております。住人、市役所に私はよく出入りをさせていただくと、見ると、やはり若い人があんまり来ていないかなというような印象も持っております。

当然仕事をしてあるから来ていないとは思いますが、庁舎が開いている時間帯は。だけれども、行政は本当に若い人とか子育て世代とか、そういった人たちの声を拾っているのかなというふうに心配をしているんですが、その点についてはいかがでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 市のほうでは、これまで様々な地方創生事業や人口減少対応事業に取り組んできております。

令和3年度に実施します朝倉市の単独事業としまして、3世代世帯転入者の住宅リフォーム、転入者の新築に対する補助としまして朝倉市住宅補助事業、この朝倉市住宅補助事業の子育て世帯への上乗せ補助としまして、子育て世帯定住促進補助事業、それから子

育て世帯を中心としました若年層が移住した際の補助金の交付として移住定住支援事業、それから市内に創業される方に対する支援事業としまして、あさくら“夢”実現サポート事業（創業支援事業）などを予算化しております。

それから、また以前より行っております中学生以下インフルエンザ予防接種事業や農林業基盤整備事業、地域環境整備事業、地域コミュニティ活動支援事業、提案公募型協働事業などは、市民ニーズが高い事業と考えているところでございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、市民ニーズが高いという言葉が出ましたけれども、その市民ニーズが高いというのは、何をもちて高いと、どのように調べて高いというふうになっているのでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 例えば農業基盤整備事業とかでいいますと、住民の方、地域の方から申請等がありまして予算のほうを使っておりますけれども、ほぼ予算のほうが消化されているような状況で、そのようなことでニーズが高いと思っております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 要するに機会ごとに住民の声を拾い上げてということだと思っておりますが、私は朝倉市の人口を維持するため、もしくは増やすために、子育て世代の人たちの流出を止めたりとか、若い人たち、子育て世代の人たちに市外から引っ越してきてもらいたいというふうに思っているんですが、少なくとも子育て世代の朝倉市に住んでいる人たちが満足をしないと、よそからは来ないだろうというふうに思っております。

そういった意味で、そういった世代に特定してアンケート調査とか、それから聞き取り調査とか、そういったことをすべきではないかというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 市のほうでは総合計画におきます施策基本事業の成果表を、2年に1度のまちづくりアンケートを行いまして、市民の意見を反映させております。

このアンケートは、市の施策各分野にわたりますことから、各年代別に無作為に約3,000人を抽出しまして、郵送にて実施しているものでございます。特定の世帯に絞って行っているものではありませんけれども、別に各担当課のほうで計画策定時などに対象者に向けてアンケートを行っているものはあります。

若い世代の意見、考えを伺うことは必要であると考えております。昨年から商工会議所青年部が主催します、あさくらの新しい風会議という場で、市職員も参加をさせていただきます意見交換を行っております。

昨年は朝倉の地方創生という内容で開催されまして、本年も10月に若年層の市外転出防止策についてという内容で開催される予定となっております。

この会議のみならず、また議員提案の若い世代へのアンケートなども含めて、様々な機会を捉えて市民の意見聴取は考えていきたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） そういった、新しい風会議ですか、全て、ちょっと記憶していないんですけれども、そういった分で個々の対象者といえますか、若い人たちの意見を聞くと、そこに答えが、私、何か見えると思いますので、ぜひともそういった努力は続けていただきまして、ぜひともそのニーズを的確につかんでいただきたいというふうに思っております。

外から人を呼び込むとか、それから流出を防ぐためには、いろいろ政策をやっていかなければいけないというのは重々分かっております。バランスよくやっていくというのが行政ですけれども、ただ見せ方として、やっぱり朝倉市にはこういう政策がありますよというような、そういった見せ方として、少なくとも県で一番であるとか、この地域で一番であるとか、そういった施策が私は必要ではないかというふうに思っております。

なかなかその財政が厳しい中、そういった施策というのは難しい、どうしても何か子育て施策とかいうと、経済的負担の軽減をしてくださいとかいうような施策になってしまいますけれども、繰り返しますが、でも見せ方として、やはり一番というようなそういった施策が必要だと思います。この点について、いかがお考えでしょうか。

○議長（半田雄三君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（安丸千奈美君） お答えをいたします。

今9月議会の補正予算におきまして審議していただく予定になっているものでございますが、あさくらきずなメール事業、こちらについて提示をさせていただいておりますが、これが実現するということになりましたら、全国で33番目、それから九州で2番目の取組になる予定でございます。

この事業は、保護者の育児不安の解消、それから地域や家庭からの孤立、孤独な子育てを予防し、平時のつながりを緊急時に生かす仕組みとなっております。

具体的には大学教授などを務める医師からの医療監修チームによる学術的要素に基づいた子育て支援情報と、朝倉市の子育て支援情報を組み合わせたメッセージ、こちらを妊娠期からお子さんの3歳の誕生日までに、約530通配信する予定にしております。

利用者については事前に登録をした出産予定日や誕生日に合わせまして、その方に合ったタイムリーなメッセージ版の育児百科を受け取ることができるようになります。妊娠期、出産、それから子育てに関する不安解消、乳幼児の虐待予防へとつないでいく予定にしております。

また、そのことによって行政との信頼関係をつくり、深めたり、地域に足を向けるきっかけになるというふうに考えております。

こちらにつきましては、今、若い人が使っておりますSNS、こちらを使って配信をす

るような予定にしております。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 若い人はSNSとか、それからインターネットというのは、非常に私の年代以上に見てありますので、これ、絶対いいなど、お話を聞きまして、きずなメールというのは説明も、今ございまして、全国で33番目、九州では2番目ということですので、それこそ福岡県で1番というような政策になると思います。530通というようなのも、いいなというふうに思っておりますので、ぜひとも、これは予算計上されているということですから、根づいて、朝倉市にきずなメールありと、多分、よそもよかったらまねしてくると思いますので、ぜひとも波に乗せていただいて、アピール、それから強力なそういったツールにさせていただきたいなというふうに思っております。

次に、そしたら、その子育て世帯の方が、朝倉市に住んでもらう。それから外から来てもらうためには、私はその仕事というのでも大事なかなと思っております。

職と住まいが近接している、職住近接という考え方があるんですけども、地元働く場がないといけないと思っております。

議員、私、議員ですので、よく大企業を誘致してくださいとかいうような企業誘致の話というのは、必ず市民の皆様から言われるんですけど、まず職場をつくるというと、企業誘致って話が出ますけど、企業誘致については、今どういう状況になっているんでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 今、企業誘致の関係につきましては工業用地、今、工場団地については、今も残地がないような状況ですので、問合せ等があれば、すぐできるだけそういった内容が回答できるように、事前にいろんな情報を商工観光のほうで持っております。そして、そして、要望があればすぐ出せるような状況ということです。

ただ、やっぱり面積があつたりとか地理的な要件もあって、なかなかマッチングがすぐというわけにはいかないんですけど、うちのほうがデータをしっかり現状のほうは持って、対応がすぐできるような状況の体制は取っております。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） よく分かりました。アンテナを広げて準備を万端にしているということだと思います。

ただ、私は世の中の企業の99%は中小企業ですので、約1%のその大企業をこぞって誘致をするよりも、地元の企業を育成するほうが効率も高く地域経済の文化を残して、人のつながりなどの強みを生かせるのではないかというふうに考えております。ですから、地元企業とタイアップをして、その強みを生かしていったらいいんじゃないかなと思っております。

その地元企業との育成であつたりとか、それから求人の紹介とか、そういった動きとい

うのは、市役所としてはなさっているのでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 地元企業の強みということで、市のほうはどのような取組をしているかということなんですが、まず、市の働く場所の状況としまして、朝倉公共職業安定所管内の求人状況をお伝えをいたしたいと思います。

令和3年6月末時点での職業安定所管内の有効求人倍率は2.07、全国が1.13、福岡県が1.09となっておりますので、それを上回っているような状況となっております。

職種ごとに見ても、おおむね7割以上の職種で求人が求職者を上回っており、働く場よりも働く人が不足しているような状況となっております。

また、市内の業種ごとの事業所、事業所数を見ますと、他市町村と比較しまして製造業や運送業の数が多い状況です。特に製造業におきましては、事業所数・従業員数ともに県内でも上位に位置をしており、働く場所を安定的に確保するという意味では、製造ラインの製造や製造機器のオペレーターなど、従業員を必要とする製造業が多いということは、地元企業の強みだと考えております。

それで、今後こういう製造業を中心としました地元企業が、1人でも市民の方が雇用できるよということ、ここ2年間はコロナの関係でできておりませんが、市と朝倉公共職業安定所で連携をしまして、地元企業への求人要請活動を実施しております。

また、市では若い世代が市内で働き、市外へ流出するのを防ぐために、地元企業を生かした取組としまして、地元企業と高校生の就職応援会の事業を実施しております。

当事業は高卒者の採用を予定する地元企業と、市内外の高等学校の進路指導担当教諭のマッチングを行って、高校生の市内企業への就職を後押しをするものです。

ここ2年間はコロナの関係で開催ができておりませんが、平成25年から令和元年度の7年間で、参加した市内企業に約190名の高校生が就職しております。ですから、こういうことでも、逆に言えば労働者を確保するということで、企業にも大変役に立っていると考えております。この事業につきましては、今後とも継続して取り組んでいきたいと思っておりますと考えております。よろしくお願いたします。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） もう時間が少なくなってまいりましたので、このRESASでも、若い人が、要するに二十歳前後の若い人たちが人口的に、人口減少で減って、そしてまた、ある程度の30代ぐらいになると戻ってくるといいますか、そういったのが数値としても出ております。

ですから、職場づくりというのは、私は朝倉市の人口を維持するために、要するに出ていった人たちが帰ってくる、帰ってこれるような環境をつくる、要するに仕事づくりは最大の政策であるというふうに私は思っておりますので、ぜひとも地元の企業とタイアップをしまして、仕事の職場づくりをしていただきたいというふうに思っております。

あと1分になりましたので、まずは関係人口として朝倉市に来てもらう。そして、いろんな経験をしてもらって、将来的に住んでもらう。そして、その一方で若い人たちを中心とした政策を打って流出を防ぐ、そういった政策を打つことによって、私は朝倉市の発展というのは、まだまだできるのではないかというふうに考えております。

冒頭に、パーパスという言葉を申し上げましたけれども、私も議員として、議員になりましたので、議員としてのパーパスを果たしたいと思っておりますので、職員の皆様も、ぜひとも職員としてのパーパスを果たしていただきたいと思っております。

朝倉市のために働く職員が元気のない朝倉市に、元気な朝倉市がないはずと思っております。質問を終わります。

○議長（半田雄三君） 10番中島秀樹議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時に再開いたします。

午後零時10分休憩